

グローバル社会における知的財産関連の最新情報

—あなたの会社の知財戦略は万全ですか？—

インテリクス国際特許事務所 代表パートナー 弁理士 上羽 秀敏(1987年物理学科卒業)



い特許の取り方、費用対効果、よくある失敗、よくある誤解などについてお話させていただきます。一方、最近の弁理士業界の内情を明らかにし、弁理士との付き合い方、いい弁理士の探し方などについてもお話させていただきます。

理工学部を卒業された方の多くは、研究開発職に就かれています。このような方にとって役に立つ情報をわかりやすく解説いたします。

上羽 秀敏 (うえば ひでとし)氏

プロフィール

1987年 関西学院大学理学部物理学科卒業、1987-1989年 日本板硝子株式会社勤務、1989-2001年 特許事務所勤務、2002年 インテリクス国際特許事務所開設、現在、インテリクス国際特許事務所 代表パートナー、独立行政法人中小企業基盤整備機構 中小企業・ベンチャー総合支援センター 常設アドバイザー、日本知的財産仲裁センター 調停人・仲裁人・判定人、ソフトウェア紛争解決センター 仲裁人・あっせん人。主な公職：2004年 日本弁理士会ソフトウェア委員会委員長、2006-2007年 日本弁理士会近畿支部 副支部長、2009年 関西特許研究会 代表幹事、2006-2009年 関西学院大学秋学期総合コース「知的財産入門」担当。

私は、昭和62年に理学部物理学科を卒業した後、平成5年に弁理士資格を取得し、現在、特許事務所を運営しています。知的財産関連の仕事に就き、今年で21年目になります。

講演では、日本及び主要国(中国、米国、欧州など)における知的財産権に関連する最近の動向を、私自身の実務経験も含め、お話させていただきます。時間の許す限り、韓国、台湾のほか、インド、ロシア、ブラジル、インドネシア、タイなどにも言及したいと思っています。具体的には、各国の特許出願の動向、審査の現状、模倣品対策、良

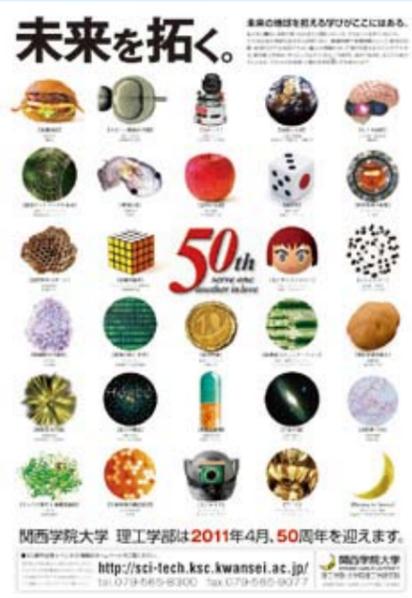
理学部・理工学部創設50周年記念事業

未来の地球を担える学びがここにはある。

私たちの暮らしを取り巻くもの全てに関わっている、サイエンス&テクノロジー。それは未知の領域を追究する学問であり、環境問題や食糧問題といった既存の知識・技術だけでは対処できない重大な問題に対して答えを導き出すことができます。関学理工学部は、サイエンス&テクノロジーを探究し続けて50年。あなたも私たちとともに、これからの地球・人類の未来を拓いてみませんか？

2011年6月4日(土) 12:00~
50周年記念式典 神戸三田キャンパス 14:00~
50周年記念パーティ 神戸三田新阪急ホテル 16:00~
※12:00よりキャンパス見学会を行っています。
記念コーナーを設置する予定です。

2011年11月12日(土) 14:00~
50周年記念講演会・シンポジウム 於：上ヶ原中央講堂
※同日理工学部同窓会総会開催



同窓からの便り

50年間もお世話になって

寺内 暉(1965年物理学科卒)

私は関学大に50年間お世話になった。その間、楽しかったこと、苦しかったことが、何件もあった。例えば、学生運動(安保1970年)、1年余りの海外出張(1976年から)、阪神淡路大震災(1995年)、国際会議で初めて招待講演を頼まれたこと、ハイテクリサーチセンターが採択され、学内の一つの共同研究体制が出来上がったこと(1997年)、近畿圏において、いつでも国際会議が出来る体制が出来上がったこと(2008年)、本学大学院と国公立の研究室の提携が順調に進み出したこと(2010年)。



上記以外に、私にとって少し悲しいことが起こった。大学評議会での増設の具体案が議論されていた時、関学では約10億円を投じて、放射光ビームラインを1本買うことを検討していた。しかし、10億円かかるとなると、意見がなかなかまとまらなかった。結局その時は、ハイテクリサーチセンターが9億円くらい(建物をも含む)で設立された。

その頃、私はよく転倒することに気付き、病院に行くと、パーキンソン病でしょうと言われ、あと5年位で歩くことが困難になると告げられた。しかし、新薬を含む投薬とリハビリのおかげで、少しは歩ける期間が引き延ばされた。現在は、車椅子を使用し、ごく少しだけ歩けるという状態、字は調子の良い時に書くが、判別しづらい箇所も増し、言語障害も出てきた。色んな人達のお世話になりながら、ここまで頑張れました。ありがとうございました。(関西学院大学教授)

追憶

篠原 彌一(1965年物理学科卒)

理工学部同窓会から原稿のご依頼をいただき、光栄に存じます。思えば早いもので、1961年に理学部が創設され、第1期生として学生時代を過ごし、卒業後暫くは不在にしましたが、1974年10月から教員として再び理学部で過ごすことができました。教員になった



とはいえ、学生時代にお世話になった先生が大変多くおられたこともあり、学生気分がいつまでも抜けきれず、今回も定年というより、いよいよ理学部を卒業かという気持ちであります。理学部は、物理学科と化学科の2学科で、40年間堅実な発展を遂げてこれたと考えています。これも一重に、創設の際のリーダーであった仁田 勇先生の時代を見越した理念がすばらしかったことによるものです。仁田先生の存在は、私に限らず、理学部の初期の卒業生には一生深く心に中に残っていることだと思います。2002年に理工学部になり、新学科を増設し、それ以降は、堰を切った河のように、大きな変革を重ねています。定年までに、数理科学科と数理科学専攻の設置にこぎつくことが出来たことは、望外の喜びです。後は、神戸三田キャンパスのもっている地理的条件の悪さを如何に克服するかです。輝かしい理工学部の未来を期待しています。理学部は少人数であったがゆえに、理学部全体が一つのゼミのようであり、物理学科、化学科を問わず多くの先生方、学生さん達と親しくなれ、話し合えたことを大きな喜びとしています。これら卒業生の方々の

ご活躍を心より願っています。長々と拙文を書いておきながら矛盾していますが、定年退職を前に、不思議なほど、思い残すことは何もありません。これが限界かと痛感しています。長い間ありがとうございました。

来年は50周年です。理学部の卒業生も理工学部の卒業生も、みんなで一緒になって理学部・理工学部の50歳の誕生日をお祝いしようではありませんか。(関西学院大学教授)